

2面 2022秋 関西のつどい  
3面 学校に自由と人権を  
4面 9・9緊急集会 18人がアピール(下)  
5面 ウクライナ戦争テーゼへの意見②  
6面 「ジェンダーフリー」の語をめぐる攻防  
7面 連載⑤ 21年7月21日ブーチン論文  
8面 シネマ案内 「パピ・ヤール」

# 未来

THE FUTURE

反帝国主義・反スターリン主義 万国の労働者と被抑圧民族は団結せよ!

●発行所 前進社関西支社  
〒532-0002  
大阪市淀川区東三国6-23-16  
(振替 00970-9-151298)  
●発行人 佐藤一

●第1・3木曜日発行  
●200円(本体182円)  
●定期購読 購読料(送料別)  
1月 400円(送料188円)  
半年 2,400円(送料1,128円)  
1年 4,800円(送料2,256円)

革命的共産主義者同盟再建協議会 <http://miraikakukyodo.jp/>



憲法9条を変えさせず、アジアの平和をめざして大阪市内を力強くデモ行進(記事は2面 10月22日)

「えさせない! めざそう! アジアの平和」のデモ行進。抗議の声をあげ、憲法9条の重要性を訴えている。背景には「憲法9条を守れ」などのプラカードが掲げられている。

一連の関西生コン支部弾圧の頂点にある「天津地裁コンプラ活動裁判」の最終意見陳述が、10月24日午前10時から午後5時まで休職をほさみり時間半にわたっておこなわれた。永嶋靖久弁護士、太田健義弁護士、森博行

判決は23年3月2日 大津地裁

えに、法廷では思わず拍手が起り、裁判長もそれを止めることはなかった。歴史に残る関生弾圧大津コンプラ裁判の判決公判は、2023年3月2日、午後1時30分、大津地裁でおこなわれる。(詳報次号)

## 遅きに失した山際大臣辞任

10月24日、山際大志郎経済再生大臣が、ついに辞任に追い込まれた。統一教会と自民党の癒着発覚以降、初めの大志郎辞任である。山際は2019年、統一教会・韓鶴子総裁との記念写真に収まりながら、資料は1年で破棄している、集会参加は何千回、写真撮影など数えきれないと、シ

## 安倍自民党と統一教会の癒着

7・8安倍銃撃死から統一教会の犯罪的姿勢が白日の下にさらけ出されている。もともと国際勝共連合と一体で、宗教を装った資金収奪の反革命カルト集団、統一教会の犯罪行為は、安倍健在中は政治の力で抑え

## 市民生活破壊の軍事拡張・原発推進

10月に入り政治の無策により猛烈な物価高が庶民を襲っている。生鮮食品だけでなく、パン・食用油・食料品などの大幅値上げ、電

## 裁判後の報告集会

えに、法廷では思わず拍手が起り、裁判長もそれを止めることはなかった。歴史に残る関生弾圧大津コンプラ裁判の判決公判は、2023年3月2日、午後1時30分、大津地裁でおこなわれる。(詳報次号)

に「敵国」を作り軍備拡大と排外主義をあおり、年末までに防衛3文書を仕上げようとしている。電力危機などと言って原発新増設40年超え老朽原発を「合法化」しようとしている。

# 安倍政治の要II統一教会解体 軍拡反対・生活防衛 岸田退陣を

10月3日からの臨時国会はこの統一教会問題が最大の焦点ながら、岸田政権は統一教会救済のため、これをうやむやにしようとしたが、教団2世や家庭を破壊された人々の勇気ある決起が続き、被害者救済のための法律の制定が超党派で進められようとしている。文化庁の質問による解散請求でも、当初岸田は刑法犯の累積が必要としていたが、民事の違法行為でも可能と朝令暮改するなど追い詰

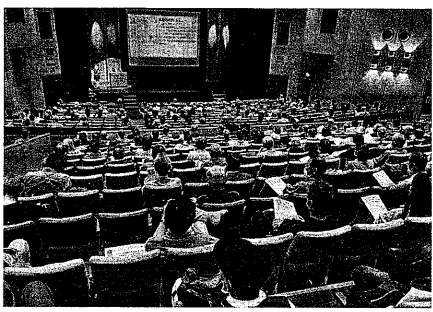
に「敵国」を作り軍備拡大と排外主義をあおり、年末までに防衛3文書を仕上げようとしている。電力危機などと言って原発新増設40年超え老朽原発を「合法化」しようとしている。

### 2022秋 関西のつどい

## 沖縄・アジアと連帯強める

10月22日大阪市内で 彰男さんの主催者挨拶「とめよう！戦争への道 めざそう！アジ」に続き、最初の講演は沖繩選出の社民党衆議院議員の新垣邦男さん。新垣さんが登壇した。新垣さんは北中城村長4期目の時、照屋寛徳さんの後継として国会議員になり、現在国会で奮闘中。本来自治体職員・首長として地元住民のために働いてきたが、強い要請のもと照屋さんの後継に。国会に行くとつづくと保守系議員が沖繩のことを全く理解していないことを実感したと語った。

沖繩では4回にわたる選挙で辺野古新基地反対の民意を示しているのに、辺野古新基地建設が前提で話が進められる。マスコミも軟弱地盤の問題などないかのように報道。私は少数でも正しいことを言い続けて行くことを述べた。次に連帯挨拶として、大阪大学名誉教授の藤本和貴さんがウクライナ戦争が始まってから中立国に停戦仲介を求めの申し入れをおこなった。簡単に成果は出ないが諦めずに活動していくと発言。続いての講演は、新



潟国際情報大学教授の佐々木寛さんと「大軍拡、改憲を撃つ」と題して話した。佐々木さんの話はまずウクライナ戦争はロシアによる侵略戦争であること、間違ったが、ゼレンスキーは国内の徴兵適齢男子の出国を禁止している、これはある種の軍国主義といえる。またバイデン大統領の息子がウクライナの天然ガス会社の役員であるという関係もある。しかしこの戦争から世界各国の軍拡競争が拡大すると、敵国よりも強力な武器をと考えると際限がなくなる。特に核兵器はも使用されれば、全世界が破滅することは明らかだ。また原発は原爆館の廃止・市役所業務の外注化などをすすめると、地域自治の取戻しなどの政策を反維新市長に実行させる地域基盤づくりを進めていく。後継を前教育長とした。尼崎・伊丹・川西などの市でも進められてこの間の各地の市議選でも、新自由主義派の躍進が激しく対立し、議団が激しく対立し、その政治的稚拙さ(21年4月宝塚市長選、22年西宮市長選敗北など)により維新の実績を

### 維新の兵庫首長取り戦略

## 11月尼崎市長選で阻止を

昨年衆議院選と本年参議院選で「躍進」した維新だが、大阪以外では参議院選京都での敗北など限界も見えた。そのため維新は、大阪型の自治体選挙(市議選、市長選)で勝利の積み上げの上、拒絶にあいダブルスコアで敗退し、10月川西市議選では独自候補を一度基本戦略と措置し、市長選では独自候補を立候補することできなかった。11月尼崎市長選(20日投票)では、当初から維新は候補者擁立を準備してきたが、その予定候補が会派の政治活動費を個人的に流用し維新を除名にもなった。維新は、維新の国会議員・泉謙と市議団が激しく対立し、その政治的稚拙さ(21年4月宝塚市長選、22年西宮市長選敗北など)により維新の実績を

を抱えているようなもので、これへの攻撃は許されないとした。さらに佐々木さんは「地域分散ネットワーク型社会」への提唱している。「民主主義の下部構造」を再構築するために、地方に発する大きな可能性と「コミュニティ・パワー」を挙げる。再2016年の新潟県知事選挙で米山隆一氏を当選させ、森裕子さんなど、今一番元氣な新潟の野党共闘で活動する知識人だと分かった。この話が聞けなかったのは残念だが、集会后は扇町公民館まで皆で元気にデモ行進をした。(大北健三)

10月16日、京都円山野外音楽堂で450人が集まり「変えよう！日本と世界」集会がおこなわれた。毎年、国際反戦デーに合わせてひらかれている「反戦・反貧困・反差別共同行動in京都」で、今回で第16回目。

**2012年体制**  
開会あいさつの後、代表世話人の新開純也さんが基調提起。安倍政治を継続する「2012年体制」を断固として粉碎し、岸田政権・自公政権を打倒すると訴えた。ウクライナでの戦争は、プーチンの大ロシア主義に基づいた侵略戦争である一方、これを口実にした世界的な軍拡を許してはならない。ウクライナ、ロシアの人々と連帯して戦争を止めないといけない。ワウの中北龍太郎さんが連帯のあいさつをおこない、続いて、木戸衛一さんは安倍政治の継続だ。これからは、私もその一人として参加したい」と、再出発について「(半)カルト国家」「無責任の体系」「無責任の体系」を完成させたのはヒロヒト天皇であり、安倍は21世紀の無責任体制の象徴的人物である。そして合理的思考を停止させたデモ行進した。(千田徹)

## 変えよう！日本と世界

重信房子さんがあいさつ

10月16日 京都

これを尊重し保護する主義がある。自民党を解体していく。そのためには、政治のフェミニゼーション(女性化)と若い人たちが取り込んでいくことが、民衆運動の課題であると訴えた。

現代のドイツは社会民主党・緑の党・自由民主党(これはネオリベ)の連立政権なのだ。ウクライナへの軍事支援が始まり、武器輸出もおこなわれている。「軍拡をやれば福祉や教育にお金がまわらない。ドイツでも国民の16.6%、8人に1人が貧困に陥っており、子どもの貧困は5人に1人である。

ドイツのみならず、世界もまた転換期である。格差・貧困、気候危機、パンデミック、戦争、インフレ、食糧・エネルギー危機など、文明に起因する問題に直面している。日本の状況は「2012年体制」という捉え方に賛成である。「安倍国葬」は安倍政治の継続だ。これからは、私もその一人として参加したい」と、再出発について「(半)カルト国家」「無責任の体系」「無責任の体系」を完成させたのはヒロヒト天皇であり、安倍は21世紀の無責任体制の象徴的人物である。そして合理的思考を停止させたデモ行進した。(千田徹)



円山公園から市内デモに出発 (10月16日 京都)

# 10・23通達撤回! 学校に自由と人権を

10月23日、都内で「閣内閣によって拒否された六人のうちの一人、東京慈恵医大教授」が講演。

「憲法を変えさせないで卒業式を短縮していい! 誰も戦場に送らなも、君が代の演奏はおせない!」と叫ぶ。歌わない

「君が代」強制反対! のに起立させられる

10・23通達撤回! 「7月12日の安倍家の家族葬に合わせて都教

10・23集会」が開かれ、

127人の労働者・市民が集まった。主催

は、「日の丸・君が代」

不当処分撤回を求める

被処分者の会など10団

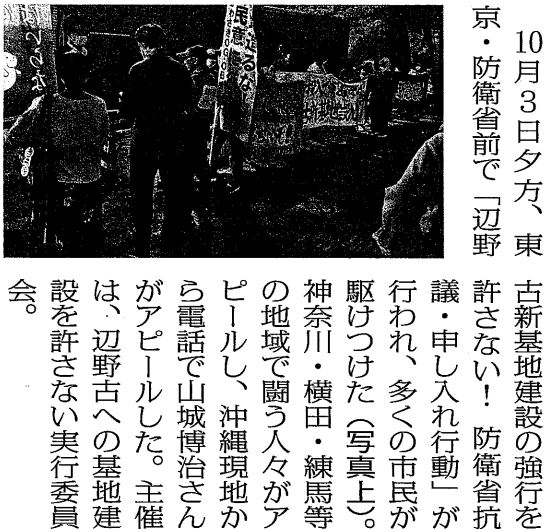
「20数年間、憲法改悪に向けた動きが続いてきた。皆さんが10・23通達に抗議して闘ってきたからこそ、一方的な国葬決定への抵抗の声が湧き起こった。様々な法改定を安倍政権の成果として、それを引き継ぐと

岸田総理が申辞で述べた。改憲を国葬で進めようとしたが、すぐに叩くから、全面戦争にはできない」「自民党は改憲を前面に出した『緊急事態』の想定についてはおまかして

岸田総理が申辞で述べた。改憲を国葬で進めようとしたが、すぐに叩くから、全面戦争にはできない」「自民党は改憲を前面に出した『緊急事態』の想定についてはおまかして

## 辺野古新基地反対

### 防衛省へ行動



10月3日夕方、東京・防衛省前で「辺野古新基地建設の強行を許さない! 防衛省抗議・申し入れ行動」が行われ、多くの市民が駆けつけた(写真上)。

神奈川・横田・練馬等の地域で闘う人々がアピールし、沖縄現地から電話で山城博治さんがアピールした。主催は、辺野古への基地建設を許さない実行委員会。

9月24日11時〜17時、ミャンマー平和の祈りとして水掛祭が最もおこなわれた。主催は、盛んに行われる国の一つですが、クーデター以降もともに行われたい。私たちは同アジアの仲間として、今大変な思いをしているミャンマーの人たちのために、平和への祈りを込めて水掛祭を奨めて開催することにしました。文化は国境を越えて人々をつなげ、芸術こそ人を踏みつけにする暴力に對抗

「水掛祭は、4月ごろの東南アジアの伝統的新年に先立ち、古

## 私たちが仲間決して負けないで

9月24日11時〜17時、ミャンマー平和の祈りとして水掛祭が最もおこなわれた。主催は、盛んに行われる国の一つですが、クーデター以降もともに行われたい。私たちは同アジアの仲間として、今大変な思いをしているミャンマーの人たちのために、平和への祈りを込めて水掛祭を奨めて開催することにしました。文化は国境を越えて人々をつなげ、芸術こそ人を踏みつけにする暴力に對抗

「水掛祭は、4月ごろの東南アジアの伝統的新年に先立ち、古

## 被処分者が特別報告

岸田総理が申辞で述べた。改憲を国葬で進めようとしたが、すぐに叩くから、全面戦争にはできない」「自民党は改憲を前面に出した『緊急事態』の想定についてはおまかして

岸田総理が申辞で述べた。改憲を国葬で進めようとしたが、すぐに叩くから、全面戦争にはできない」「自民党は改憲を前面に出した『緊急事態』の想定についてはおまかして

岸田総理が申辞で述べた。改憲を国葬で進めようとしたが、すぐに叩くから、全面戦争にはできない」「自民党は改憲を前面に出した『緊急事態』の想定についてはおまかして

## 画期的な開催

2021年2月1日、水掛祭が開催されたこと

2021年2月1日、水掛祭が開催されたこと

# 9・9 緊急集会 18人がアピール(下) 国葬粉砕闘争うけつぎ岸田打倒へ

9月9日大阪市内で、やめる！安倍国葬緊急集会が、会場あふれる250人で開かれた。

今後につながる重要な発言を本紙351号につづき掲載する。(文責：本紙編集委員会)

「日の丸・君が代」強いているが、国葬について制反対・不起立処分を「対応をみたい」はしていない。9割以上は非正規。日本全体で40%。最近、その数字が出ていない人が多くなっている。6〜7割が「君が代」を拒否している。岸田政権が「君が代」を強いている。市民で声を届け断念時、不起立3回で免職させていく。

### ＜大阪全労協＞

事務局長の竹井隆さんが発言。大阪全労協は、労働組合ナショナリズムの地方組織。連合や全労連と比べると小さいが、様々な取り組みをしている。コロナ危機で労働問題と関係が深まっている。コロナ禍の多くは情勢をみて判断すると、もっとも主体性がないうまくない。質問は「ならば判断していない」。国葬批判が高まった中で、国葬のやりかたが教育委員会に「強制しない」と言わざるを得ない。

文科省も「強制しない」と通知。摂津市は「今後とも通知することは検討していない」と言った。大阪府は官僚的、今回、注目しているのは吹田市。安倍国葬の時に、国旗を掲げ

「日本軍慰安婦問題」関西ネットワーク。私達の運動の立場から「慰安婦問題の声を届けていこう」というのが目的。過去の産経新聞の報道で、慰安婦問題が「慰安婦問題」を理由にして朝日新聞の「慰安婦問題」をめぐって、各紙が取り上げる姿勢は現首相岸田にも引き継がれている。過去の戦争を美化し加害の歴史の事実と責任から目をそむけ、過去の戦争を準備につづいてきた安倍元首相の死を政治利用する国葬に反対する。

倍は朴槿恵大統領に電話で謝罪したというものが、国会で謝罪の言葉を促されても拒否し「二度と口にしない」というむじろの被害者を侮辱する姿勢だった。15年8月、安倍は戦後70年談話を発表。河野談話の3倍の長さに慰安婦の言葉は一言もなかった。子や孫に謝罪を継ぐ宿命を背負わせてはならないとした。加害の歴史に向き合うことを拒否し、人々の記憶からこの問題を消去しようとする。2014年に朝日新聞は、次世代から平和と人権のあるべき未来を奪うことに他ならない。韓国政府に「性奴隷」という言葉を禁じ、各国に建てられた少女像の撤去を公然と要請した。2018年自民党の改憲草案は完全に勝連合の改憲案のバリエーションの一つに過ぎない。自民党の改憲案を再構築し、改憲派が「黄金の3年間」を阻む。そのためには、市民の力をあわせていく。

2007年には慰安婦問題について「強制しない」と閣議決定。アメリカのワシントンポストの「慰安婦は嘘」というヘイト的意見が、第二次政権、外交を申請し入れても対応しなかった。2014年に朝日新聞は、次世代から平和と人権のあるべき未来を奪うことに他ならない。韓国政府に「性奴隷」という言葉を禁じ、各国に建てられた少女像の撤去を公然と要請した。2018年自民党の改憲草案は完全に勝連合の改憲案のバリエーションの一つに過ぎない。自民党の改憲案を再構築し、改憲派が「黄金の3年間」を阻む。そのためには、市民の力をあわせていく。

「おほめよう改憲！おお会場で真先に言ったのは、緊急事態条項の創設だった。」松岡幹雄さんが発言。第一安倍政権が発達し、改憲の危機だといふこと、ネットワークがスタートし、存続を決めた。まさに緊急事態条項の先取りではないか。しかも、開

会中審査の中でも、国会が改憲路線がこれで断然だといふふうに言った。これは非常に恐ろしい、危ない判断だと思います。こういふ岸田政権が進めようとしている改憲路線と安倍政権が引き継いでいる改憲路線との違いは、まさに緊急事態条項の問題も含めて改憲の先取りとして国葬ではないか。このことを強く反対を訴える必要があると私は思っています。最後に、開会中審査で「いいいな説明をやった」と言いました。国民は納得したのかという事です。してないですね。国葬中止の闘いから秋の改憲の運動、そして野党共闘を再構築し、改憲派が「黄金の3年間」を阻む。そのためには、市民の力をあわせていく。

### シルバー産業新聞社は Iさんを職場に戻せ



10月21日、大阪市中央区に本社があるシルバー産業新聞社に対する申し入れと社前抗議行動が50人の結集で行われた。東京から争議当該のIさんと所属組合の全国一般労働組合東京支部も結集した。Iさんは今年4月、新卒で無期雇用の正社員として福祉・介護業界の専門紙であるシルバ産業新聞社に入社した。しかし、不在の社員として電話すると、長に社員が電話すると「今、取材中」というのみで社長はIさんに誠実に対応しようとしなかった。Iさんは一方的に退職した。Iさんに対しては、謝罪し、解雇を撤回せよ。Iさんは「社長の気分一つで社員の身分が変更される、事実上のクビにできる先例ができてしまふことになるので、Iさんに職場環境がこれまで以上に強要し、職場環境がこれまで以上に不安なものになる」と述べた。Iさんは「社員としての権利を主張し、職場環境を改善し、おほさかユニオンネットワークは勝利するまで闘う」と宣言した。私たちがシルバ産業新聞社に闘っているのは、Iさんとの決意表明、全国一般労働組合東京支部は労働組合の突入を宣言し、おほさかユニオンネットワークは勝利するまで闘う。Iさんは社前行動でマイクを握り、「こんな不当解雇は許せない、勝利するまで闘う」と決意表明し、全国一般労働組合東京支部は労働組合の突入を宣言し、おほさかユニオンネットワークは勝利するまで闘う。

10月21日、大阪市中央区に本社があるシルバー産業新聞社に対する申し入れと社前抗議行動が50人の結集で行われた。東京から争議当該のIさんと所属組合の全国一般労働組合東京支部も結集した。Iさんは今年4月、新卒で無期雇用の正社員として福祉・介護業界の専門紙であるシルバ産業新聞社に入社した。しかし、不在の社員として電話すると、長に社員が電話すると「今、取材中」というのみで社長はIさんに誠実に対応しようとしなかった。Iさんは一方的に退職した。Iさんに対しては、謝罪し、解雇を撤回せよ。Iさんは「社長の気分一つで社員の身分が変更される、事実上のクビにできる先例ができてしまふことになるので、Iさんに職場環境がこれまで以上に強要し、職場環境がこれまで以上に不安なものになる」と述べた。Iさんは「社員としての権利を主張し、職場環境を改善し、おほさかユニオンネットワークは勝利するまで闘う」と宣言した。私たちがシルバ産業新聞社に闘っているのは、Iさんとの決意表明、全国一般労働組合東京支部は労働組合の突入を宣言し、おほさかユニオンネットワークは勝利するまで闘う。

おわびと訂正 352号8面左上「宝島裁判」記事 7段目、小見出しから右へ4行 (誤)「またキエア相談所代表・野瀬博之さんが新たに原告に加わった。」 (正) 削除



会場いっぱい参加者 (9月9日、大阪市)

# ウクライナ戦争 テーゼへの意見 ②

本紙347号「ウクライナ戦争テーゼ」に対する意見を352号に掲載した。典型的な疑問としての郷田さんの意見に対する回答＝反論を掲載する。高見さんと田中さんの意見は、ウクライナ戦争テーゼへの疑問というより、レーニン「民族自決権」と、ソ連崩壊以降のロシア・欧米関係の考察なので、今後の議論の素材としたい。

今後もウクライナ反戦をめぐる意見を望みたい。テーゼと、それに対する意見、それへの反論(今号)と、次に郷田さんの意見があれば、この4論考で一区切りとする。他の意見も紙面の都合もあるので、1000字から最大2000字の範囲で、「ひろゆき」のような論法でない限り掲載したい。

本紙編集委員会

## 『未来』352号 郷田意見への反論 闘うべき相手はロシア・プーチン

『未来』編集委員 寺田理・大久保一彦

『未来』352号に、郷田剛さんの意見が掲載されている。郷田さんは、ウクライナ国内の階級矛盾をとりあげ、「ウクライナ人民はプーチンの戦争と闘うとともに、ゼレンスキー政権とも戦うべきだ」と述べている。この間の『未来』の論調、「ウクライナ戦争テーゼ」に対する代表的反対意見なので、以下これにたいする反論をしたい。

中は同じ思いだろう。戦前日本の中国侵略にたいして、蒋介石(国民党)軍が武装抵抗した。この時蒋介石は民族資本(資本家)の代表だから、中国労働者階級は、日本軍とも蒋介石軍とも戦え、というのだろうか。中国人は当初蒋介石軍の下にあったが、日本軍との闘いの中で中国人民を裏切る蒋介石軍とは別個の解放勢力(毛沢東(八路軍)を育てた。現在ウクライナにもロシア軍とパルチザン戦争を戦う勢力は存在し、社会主義勢力も声

「未来」352号に、郷田剛さんの意見が掲載されている。郷田さんは、ウクライナ国内の階級矛盾をとりあげ、「ウクライナ人民はプーチンの戦争と闘うとともに、ゼレンスキー政権とも戦うべきだ」と述べている。この間の『未来』の論調、「ウクライナ戦争テーゼ」に対する代表的反対意見なので、以下これにたいする反論をしたい。

戦時体制構築・軍事力2倍化を狙っている。これにだまされてはいけない。台湾は中国内部の問題で、その将来は中国人民が決めることだ。日本人民は、台湾・中国に戦争を仕掛けた。決して白人が勤勉で、知的で、優秀だったからではない。4 「21世紀のレコンキスタ」は正義か

しかし、その理念を実現する経済的実力を保持しているわけではない。ユーゴ紛争で味を占め(ユーゴ紛争ではプロパガンダでセルビアを崩壊させることに成功した)欧米のマスコミ支配によって、プロパガンダで軍事的劣勢を跳ね返そうとしていたユーゴスラビアとはわけが違いすぎる。軍事的実体を伴わないものがプロパガンダだけに頼って勝利することは、所詮無理である。

まず議論にあたって、共通の認識として、以下のことを確認しておきたい。この戦争はロシアによる侵略戦争であり、ウクライナ人民の抵抗闘争であることだ。ウクライナは資本主義体制であり、ゼレンスキーは資本家階級を代表する政治家で、欧米の武器援助はウクライナを勢力圏に取り込むためであること。これらの点では一致できると思う。

民族主義はやっぱり抑圧国の民族主義は排外的であり、日本をはじめ帝国主義国の民族主義には無条件に反対するべきだ。ロシア国内の大国主義的民

そのことによつての「豊かな国」になった。決して白人が勤勉で、知的で、優秀だったからではない。4 「21世紀のレコンキスタ」は正義か

「(1)ロシアによる侵略戦争」

まず議論にあたって、共通の認識として、以下のことを確認しておきたい。この戦争はロシアによる侵略戦争であり、ウクライナ人民の抵抗闘争であることだ。ウクライナは資本主義体制であり、ゼレンスキーは資本家階級を代表する政治家で、欧米の武器援助はウクライナを勢力圏に取り込むためであること。これらの点では一致できると思う。

「(2)階級対立と民族問題」

郷田さんは、次のように言っている。ウクライナは資本主義体制であり階級対立がある。だからウクライナ人民の闘いは「ゼレンスキー政権にも反対」でなければならない。階級対立を重視すべきであって、ウクライナ民族主義を優先するべきではない。まとめれば、こういうことになり

「(3)ウクライナ人民はロシアの被抑圧民族」

抑圧国の民族主義は排外的であり、日本をはじめ帝国主義国の民族主義には無条件に反対するべきだ。ロシア国内の大国主義的民

「(4)日本人民はこの戦争に反対する」

岸田文雄首相は、ウクライナ侵略について「他人事ではなく、自国の国事として受け止める」と呼び国会決議を上げ、「台湾有事は日本有事」と言い、

「(5)ウクライナ人民はロシアの被抑圧民族」

抑圧国の民族主義は排外的であり、日本をはじめ帝国主義国の民族主義には無条件に反対するべきだ。ロシア国内の大国主義的民

「(6)ウクライナ人民はロシアの被抑圧民族」

抑圧国の民族主義は排外的であり、日本をはじめ帝国主義国の民族主義には無条件に反対するべきだ。ロシア国内の大国主義的民

「(7)ウクライナ人民はロシアの被抑圧民族」

抑圧国の民族主義は排外的であり、日本をはじめ帝国主義国の民族主義には無条件に反対するべきだ。ロシア国内の大国主義的民

「(8)ウクライナ人民はロシアの被抑圧民族」

抑圧国の民族主義は排外的であり、日本をはじめ帝国主義国の民族主義には無条件に反対するべきだ。ロシア国内の大国主義的民

「(9)ウクライナ人民はロシアの被抑圧民族」

抑圧国の民族主義は排外的であり、日本をはじめ帝国主義国の民族主義には無条件に反対するべきだ。ロシア国内の大国主義的民

ジェンダーの視点から安倍政治を斬る ②

# 「ジェンダーフリー」の語をめぐる攻防

石川 由子

結合点は

## 「ジェンダー」

日帝支配の根幹は天皇制イデオロギー、別々の一点で自民党と保守的宗教が一致したのであり、ジェンダー平等は受け入れられない。一方で統一教会はジェンダー解放人間との解放を「共産主義」と決めつけ悪罵を投げつけてきた。もちろん我々共産主義者はジェンダー平等は当然の課題としてとらえているが、これは普遍的な人権の問題なのであり、の頃まだジェンダー平等すべての人間が取り組まなければならないのいたのである。例えばジェンダー差別は夫婦別姓について、1995年に法制審議会民法部会が中間報告を出し、翌年には民法改正案を答申するなど、あと一歩にまで来ている。ジェンダー差別は夫婦別姓について、1995年に法制審議会民法部会が中間報告を出し、翌年には民法改正案を答申するなど、あと一歩にまで来ている。

2000年代初頭の男女共同参画社会基本法に基づく各自治体の男女共同参画条例の成立の頃、統一教会や宗教右翼は妨害を試み、バックラッシュ時代と呼ばれている。性的指向に関わらず人権を尊重する」という文言を盛り込んだ画期的な内容だった。しかし、統一教会らが反対運動を開始し、『世界日報』は「このままで

1975年の国際女性年から20年、1995年は北京で国際の北京綱領が採択されたことは前号です。この頃からバックラッシュが始まった。新しい歴史教科書をつくる会が日本軍「慰安婦」問題について、若い世代にとって

2005年、第二次男女共同参画基本計画改定を前に自民党は「過激な性教育・ジェンダーフリー教育実態調査プロジェクト」(以下PT) (座長ム(以下PT) (座長ム) 安倍晋三幹事長代理、事務局長山谷えり子参議院議員) を立ち上げた。わが国には立派な家族制度の下に夫婦愛、兄弟姉妹愛、愛国心が育ち自国を誇りに思っているからであらう。このPTの報告書が羅列されている。またPTは「ジェンダー」の用語の削除を要求している。

## 「女性、命、自由！」(上)



マフサ・アミニさん死亡事件に

大衆決起続くイラン

佐藤 隆

9月13日、イランで、マフサ(シナ)・アミニ(22歳)が「ヘジャブ(スカーフ)の春」以来、最も強力な民衆運動となりつつある。アミニさんは9月13日、西部クルディスタン州から家族とともにテヘランの親戚を訪ねた際、道徳警察の патруル隊に逮捕された。アミニさんが服従しないまま、16日に心臓発作を起したと発表された。この死亡は「再教育センター」で倒れる場面

は都城市は同性愛解放区になる」と攻撃。結局、2006年「性別又は性的指向」は削除され「すべての人」という包括的条文にかえられた。このPTの報告書を読むと隠そうもせず差別的内容を書いている。基本になる考え方は「家制度の強化」である。そのためには性的役割分業に執着し、基本計画にフェミニズムが編み出した概念を採用的にしていることだ。2次男女共同参画基本計画では「ジェンダーフリー」の用語は使われないが、恥じらいとたしなみ等、女らしさ男らしさは失われぬよう区別をはっきりさせるべし」と明記されている。筆者は「ジェンダー」の語は残った。筆者は「ジェンダー」の語は残った。

## 異次元緩和の総括

花山道夫



アベノミクスは失敗

一言で言えばアベノミクスは失敗である。本筋としては、①大胆な金融政策、②機動的な財政政策、③民間投資を喚起する成長戦略。最後の財政政策需要の拡大)が安倍氏の国葬だったとは皮肉である。主な支出が警備費では波及効果は小さく、増えたこと、実質賃金や潜在成長率の低下。機動隊が登場する。機動隊が登場する。機動隊が登場する。

3日後に死亡した事件を受けて、イラン全土で世界中で抗議の声が上がり、イラン各地でデモや抗議行動が続けられている。街頭を制圧し、あるいは各地で散発的に発生し、ここ数年で最大規模のもの

2021年度予算案が安倍元首相の葬祭費は緊急性が低い。この一変でなければならぬ。2021年度予算案が安倍元首相の葬祭費は緊急性が低い。この一変でなければならぬ。2021年度予算案が安倍元首相の葬祭費は緊急性が低い。この一変でなければならぬ。

連載

# 侵略と併合を合理化 21年7月12日付プーチン論文 「ロシア人とウクライナ人の歴史的一体性について」⑤

## ミンスク合意の到達点

ロシアは、この兄弟姉妹殺しをとめようと、すべてのことを試みた。ミンスク合意は、ドンバス紛争を終結させるための平和な居留地を創ることを謳っている。これに代わる代案は皆無だと私は確信する。いかなる場合でもミンスク停戦合意パッケージの署名から撤退することはできない。同様に、ノルマンディーフォーマット上の各国首脳による声明を撤回した国はない(注13)。2015年2月17日の国連安保理決議の見直しに着手した国もなかった。

公式の交渉の間にも、西欧のパートナーによって押しとどめられた後、ウクライナの代表陣は、ミンスク合意を順守する旨、決まって宣言するが、実際には、「うけ入れがたい」という立場で行動することになった。ウクライナ側は、ドンバスの特殊な地位についても、そこに居住する人々のための安全に関しても、まじめに話し合う気がない。

「外国からの侵略による受難」というイメージを身に着けることを好み、ロシア恐怖症を売り歩いている。ドンバスで、血なまぐさい挑発を手配する。つまるところ、ウクライナは、あらゆる手段で、外国のパトロンと旦那たちの気を引こうとやっきになっているのだ。明白に、私は、少しずつ、次のように確信するに至った。キエフはまったくドンバスを必要としない。なぜか?なぜなら、まず第一に、力、封鎖、脅しによって押しつけたりしても、この地域の住民たちは決して受け入れない。2番目に、ミンスク合意の1と2の双方の出現はウクライナの領土保全を平和裏に実現する本当のチャンスであり、ドネツク人民共和国とルガンスク人民共和国とロシアが直接合意し、仲介役としてドイツとフランスが入ったことは、「反ロシア計画」の論理とは正反対なのだ。そして、内外の敵の姿を常時、育てることによってのみ支えられ得るものなのだ。さらに付け加えれば、さもなければ西欧列強への保護と支配下に陥ることを意味する。

これは実際に何が起きているだろうか。まずなによりも、ウクライナ社会において、恐怖の雰囲気、攻撃的なレトリック、ネオナチへの甘やかし、国家の武装強化が顕著になっている。それとともに完全な依存だけではなく、ウクライナ政権の諸機関や特殊部隊および軍隊に対する外国人顧問の監督、ウクライナ領土の軍事的開発、NATOのインフラ施設の配備、などを含めた直接の外国による統制も実施されている。前に述べたような「先住民」に対する破廉恥な法律が、ウクライナにおける大規模なNATOの軍事演習の隠蔽に適用されたことは、単なる偶然の一致と言って済ますわけにはいかないだろう。

これもまた、ウクライナ経済を乗っ取るための擬装工作、ウクライナの自然資源を巡る開発＝搾取である。農地の販売は遠い先のことではない。それを誰が買うかは明白だ。時代から次の時代へ、ウクライナは、まさしく財政的資源を与えて、貸付する。自分なりの条件のもとで、利殖を追求する。そうして、優先権と利益は西欧の企業となる。ところで、誰が借りをかえすのだろうか?それは、現在のウクライナの世代が背負うばかりでなく、その子、その孫、またそのひ孫へと継承されるのだ。

西欧の反ロシア計画の作り手たちが、大統領、国会議員、大臣がかわっても、ウクライナ流の政治システムを伝える。ロシアに対して別だという気構えと敵意だけは残り続ける。現職の大統領にとって、平和に至ることは、主要な選挙スローガンである。彼はこのことによって、権力の座に就いた。約束が、反古となる。何も変わらなかった。そしてある意味では、ウクライナの情勢もドンバス周辺も、退歩している。

反ロシア計画では、主権国家ウクライナも真の独

立を守り切る政治勢力も居場所がない。ウクライナの人々の社会ともう一度和解しようと、対話しようと、現在の袋小路の突破口としようと語り掛ける人々は、「ロシア万歳」のひも付きエージェントというレッテルを貼られる。

もう一度言うが、ウクライナの多くの人びとにとって、反ロシア計画はまったく受け入れがたい。そういう人は、何百万人もいる。しかし彼らは、頭を挙げることは許されない。彼らは、自分自身の主張を守るための法的な機会を奪われてしまった。彼らは、脅かされて、地下へ追いやられる。信念をもって、言葉を発し、立場を公然と表現をすることによって、迫害を受けるのみならず、殺される。殺人は、概して、裁かれないのだ。

今日、ウクライナの「本当の」愛国者はただひとり、ロシアを憎む者とされる。それ以上に、ウクライナが完全な独立国家であることは、われわれが理解するところでは、この理念の上のみ打ち建てられるとされる。憎しみと怒りは、世界の歴史が繰り返して証明するところでは、主権の基盤としては非常に不安定なもので、多くの深刻な危難と悲惨ななりゆきに満たされている。

反ロシア計画に関係するすべての策略はわれわれには明白だ。そして、われわれの歴史的領土とそこに密接に生きている人々をロシアに対立して使わせるわけにはいかない。そうした企図をよしとする人々に対して、こうしたやり方は自分の国を亡ぼすことになると言いたい。

ウクライナの現政権は、西欧の経験を参照したが、ついてゆくべきモデルとみなしたのであろう。オーストリアとドイツ、米国とカナダという、隣り合って暮らす国々を一瞥してみよう。民族構成や、文化が密接で、実際、一つの言語を共有しつつ、自身の国益、独自の対外政策をもって、主権国家として、生き残っている。しかし、親密なる統合、同盟関係をそれぞれ排除することはない。両国家は、条件に恵まれた、分かりやすい国境を持っている。これらの国を通過するとき、市民は、みずからの家庭にいるかのような気分になる。彼らは、家族を創り、学び、働き、ビジネスをする。ついでながら言うと、何百万ものウクライナで生まれた人々が、現在、ロシアで暮らしている。われわれは彼らを自分の親しい人のように感じる。

ロシアはウクライナと対話する場合、胸襟を開くし、最も複雑な問題でも、議論する余地はある。われわれの友邦が自国の国益を守るが、われわれに敵対するために誰か他人の手助けをすることはないと理解するために、大事なのである。

われわれは、ウクライナの人々の言葉と伝統に敬意を抱いている。われわれは、ウクライナの人々の、自由で、安全で、繁栄したいという気持ちを尊重する。ウクライナ国の真の主権は、ロシアとパートナーシップを結ぶことによってのみ可能になるということを確認している。われわれの精神的、人間的、文明的な結びつきは何世紀もかけて形成され、同じ根源からの起源を持ち、共通の挑戦、達成、勝利を錬成してきた。われわれの親族関係は世代から世代へ伝えられてきた。それは、現代のロシアとウクライナの人々の生活の中で心と記憶の中にあり、何百万ものわれらが家族を結び付けている血の中にある。ともにわれわれはあり、これからも幾度も強くなるとうし、さらに成果をあげてゆく。というのも、われらはひとつの民族だからだ。

今日、これらの言葉は、あるひとびとにとっては、敵意をもって迎えられるだろう。彼らは、あらゆる形で違った意味に取る。しかし、多くの人たちは聞いてくれる。そこで私は一つのことを言いたい——ロシアは、決して「反ウクライナ」であったことは

ないし、「反ウクライナ」にはならない。そして、ウクライナがこれからどうなるか、それはウクライナ市民が決めるべきことなのだ。

(注12) カチンの殺戮：1940年、スターリンの命令でソ連の秘密機関がポーランド人捕虜、おもに軍の将校2万2千人余りを虐殺して現在のベラルーシのカチンの森に埋めた事件。戦後発見されたが、ソ連当局はドイツ軍の仕業だとして認めなかった。ゴルバチョフが初めてソ連の責任を認めて調査を開始した。2004年プーチンは大統領になって、「スターリンの犯罪」と認めたが、国家としてのロシアの謝罪を拒否している。本論文では、下手人をウクライナであるかのようにすり替えている。ウクライナとポーランドは、第2次大戦とそれ以前の相互の住民殺しについて、歴史的に検証したうえで許し合う関係を形成している。そのためにポーランドは、今回のロシアの侵略戦争に対してもっとも多くのウクライナの避難者を受け入れている。しかるにロシアはいまだカチンの虐殺に対する謝罪を拒否し、本プーチン論文のように事実すらあいまいにしている。

(注13) ミンスク合意：2014年6月、1944年のノルマンディー上陸作戦70周年記念の際、非公式に開かれた会合に集まったウクライナ大統領ペトロ・ポロシェンコ、ロシア大統領ウラジーミル・プーチン、フランスのフランソワ・オランド大統領、ドイツのアンゲラ・メルケル首相がウクライナ東部での武力衝突の収拾について話し合った。この枠組みを「ノルマンディー・フォーマット」と称して、以降この紛争解決の枠組みとなった。2014年9月にウクライナとロシア、それと2つの「自治共和国」を名のる分離主義者の代表が、欧州安全保障協力機構(OSCE)の仲介で話し合い、停戦合意に調印した(これを「ミンスクI」と呼ぶ)。しかし現地での戦闘が続いたため、ノルマンディー形式の首脳会議が再度開かれ、2015年2月「紛争の総合的解決」のための合意がなされ、独・仏の首脳を含め全当事者が調印した(これを「ミンスクII」と呼ぶ)。合意の内容は、①包括的な停戦、②全外国部隊の撤収、③違法な武装集団、装備、傭兵の撤収、④東部2地域に「特別的地位」を与えることを憲法・法律で保障する、⑤ウクライナ政府による国境管理の復活、などである。ところがこの停戦合意も守られず、2021年6月までに双方で計1万3千人の死者、3万人の負傷者、ウクライナ人の避難者は150万人に及んだ。ロシアは、ウクライナがこの「紛争」でドローンを使用したことを停戦合意違反というが、ロシアはこの戦闘にロシア軍を参加させ、傭兵・特殊部隊を大量に投入している。ウクライナの国境管理を無視するだけでなく、2つの分離主義者の「人民共和国」にはウクライナの主権を認めていない。

2015年7月には、ウクライナの上空でマレーシア旅客機が撃墜され、乗員・乗客計298人が全員死亡した。その後の調査で、ロシア軍が分離主義者の領域に発射装置を運びこみ、ミサイルを撃ったのちに即撤収したものであることが判明している。全停戦条件を破っているのはロシアである。ミンスク合意、とくにミンスクIIは、クリミアに続いて、ウクライナ東部2州にウクライナの主権の及ばない地域をつくり、ロシアに併合する準備としたものであり、ロシア人が居住しているからその保護のためと称して介入を公然と認めるロシアの不当・不法な行為を容認し、「紛争仲介」と称して、プーチンのさらなる侵略の糸口を与えたのは当時の2国の首脳である独メルケルと仏オランドである。同様の事実として、1938年9月、チェコスロバキアのズデーテン地方をそこに住むドイツ人の保護という名目で、ドイツへの割譲を要求したヒトラーの恫喝に屈し、自国への戦争の波及に恐怖した英ネヴィル・チェンバレン、仏エドゥアール・ダラディエ両首相は、ヒトラーのこの不当な要求をチェコスロバキア政府に飲ませた(ミュンヘン会談・ミュンヘン協定)。「何が何でも戦争を防ぐ」ためと称して、他国の領土を切り売りしたことは、今も昔も歴史的犯罪というべきである。

(おわり)

シネマ案内

『バビ・ヤール』

監督：セルゲイ・ロズニツァ 2021年制作



ユダヤ人虐殺現場(1943年) バビ・ヤール(ウクライナ)

ウクライナのキエフ近郊にバビ・ヤール渓谷がある。ここは、第2次世界大戦中のナチス・ドイツ占領下で、7〜10万人におよぶユダヤ人が虐殺された場所だ。しかし、この事実を今日ではすっかり忘れ去られている。...

がし、ヒトラーのポスターを貼っていく。ナチス・ドイツの勝利パレードには、ウクライナ民族主義者たちも積極的に参加している。...

この映画を語るとき、ロシヤによるウクライナ侵略を考えないわけにはいかない。映画のなかで、ロズニツァ監督はウクライナについて批判的にみている。...

このように、ウクライナはたばびヤール戦場になってきた。侵略者にたいして戦わなければならない。...

憲法大行動
とき：11月3日(木) 午後2時
ところ：国会正門前
主催：総がかり行動実行委員会

闘争案内
ドキュメンタリー映画
『ここから』「関西生コン事件」と私たち「上映会」
とき：11月6日(日) 午後1時半
ところ：京都府部落解放センター4F

差別・排外主義を許さない！
11・13新宿ACTION
とき：11月13日(日) 午後2時
ところ：新宿駅東口アルタ前広場

『黒い雨』訴訟

「黒い雨」被爆者は、なぜ75年以上ものあいだ置き去りにされてきたのか。本書はこの点を解明している。...

「黒い雨」訴訟
2015年、広島県内の男女64人(最終的に84人)が「原告たちを被爆者と認めよ」という訴訟を広島地裁に提起した。...

盗掘されたアイヌの遺骨 返還求めて行動



10月3日午前、東京・本郷の東大本部棟前で、盗掘されたアイヌの遺骨の返還を求める行動があったので参加しました。...

参加していません。対応した担当者(前年度までの担当者が異動でいなくなっている)が、事前に東大に送られていた文書にも目を通さず上司から対応を命じられたとだけ言っている無責任な態度(※よく聞いたらこれまでの経緯については頭に入っているらしい)を弾劾し、本部棟前でイチャルパ(慰霊祭)をおこなって、...

「黒い雨」被爆者は、1970年代から援護地域の拡大を要求してきた。78年に広島県「黒い雨」原爆被害者の会連絡協議会を結成し、この運動をおこなってきた。...

内部被ばく問題
本書では、核による内部被ばく問題のなか「黒い雨」被爆者の闘いを位置付けて、ヒロシマ・ナガサキとフクシマを一体で論じている。...

被爆者の闘い
第5福竜丸事件において、日本政府はこれに従った。...